

一般国道41号

めい のう

名濃バイパス

(道路事業)

説明資料

令和元年8月9日

中部地方整備局
愛知国道事務所

目 次

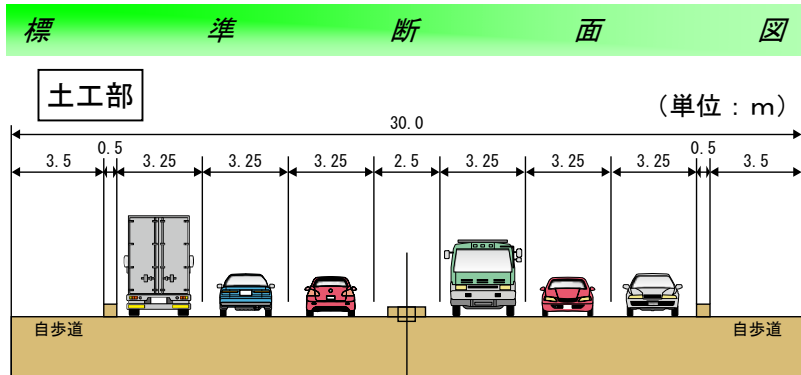
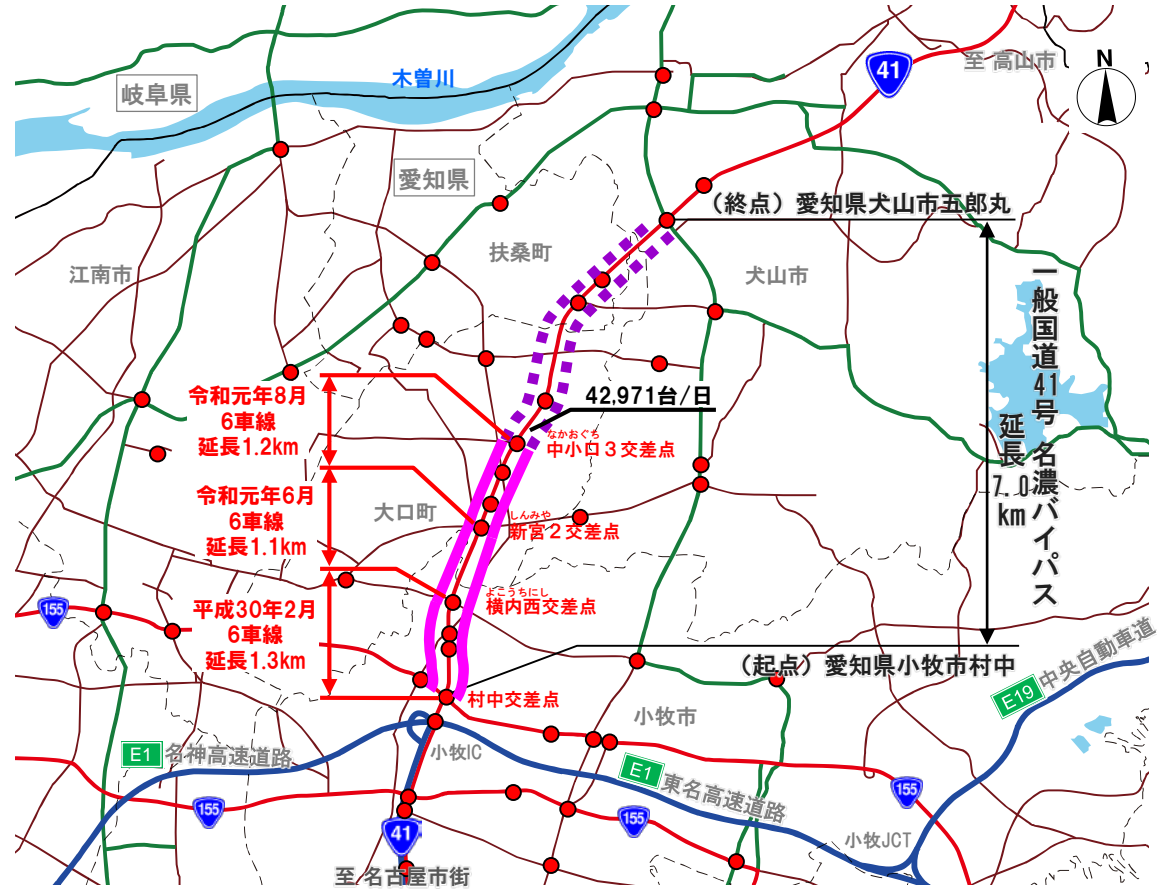
1. 一般国道41号名濃バイパスの事業概要	
(1)事業目的	P 1
(2)計画概要	P 2
2. 評価の視点	
(1)事業の必要性等に関する視点	P 3
①交通渋滞の緩和	P 3
②ストック効果事例:沿線地域の産業支援	P 4
③ストック効果事例:観光支援	P 5
3. 事業の進捗及び見込みの視点	P 6
4. 事業費の見直しについて	P 7
5. 費用対効果分析	
3便益による事業の投資効果	P 9
6. 代替案立案等の可能性の視点	P10
7. 県・政令市への意見聴取結果	P10
8. 対応方針(原案)	P10

1. 一般国道41号名濃バイパスの事業概要

(2) 計画概要

名濃バイパスは車道部を4車線から6車線に拡幅する事業であり、平成25年度に事業化、^{なかおぐち}村中交差点から中小口3交差点までの区間(3.6km)が6車線開通しています。

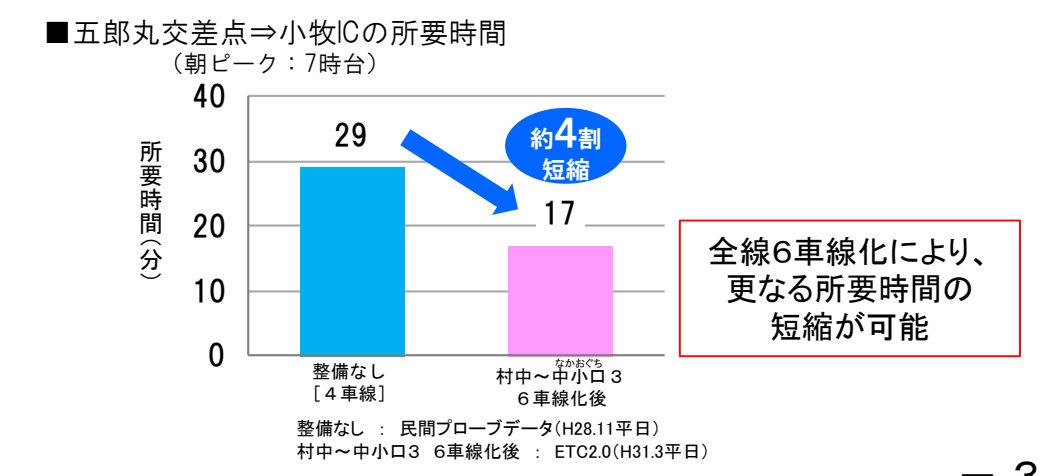
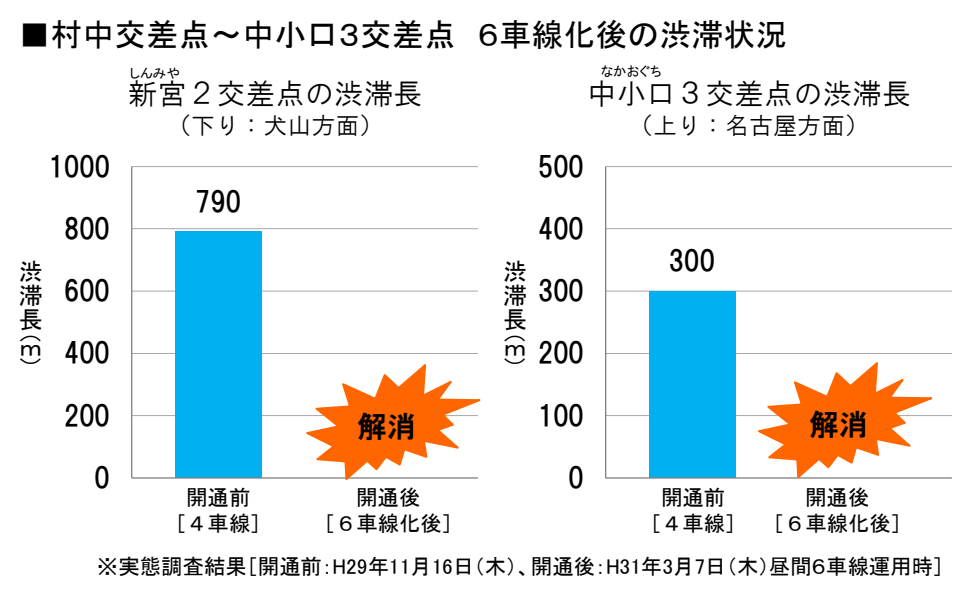
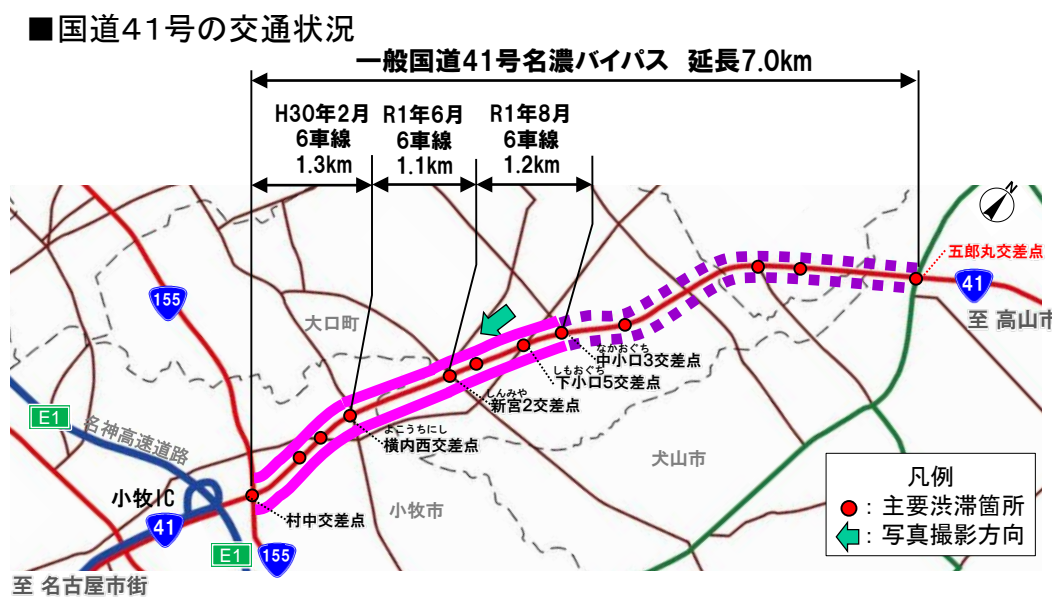
事業名	一般国道41号 名濃バイパス
道路規格	第4種第1級
設計速度	60km/h
車線数	6車線
都市計画決定	昭和45年度
事業化	平成25年度
計画交通量	55,700台/日
工事着手年度	平成26年度
延長 (平成30年度末)	7.0km (うち開通済3.6km)
前回の再評価	平成29年度(指摘事項無し:継続)
全体事業費	135億円(40億円増)



- 凡例
- 名濃バイパス (6車線開通済)
 - 名濃バイパス (6車線化事業中)
 - 高速道路
 - 主要地方道
 - 一般国道
 - 一般県道
 - 主要渋滞箇所

2. 評価の視点【事業の必要性に関する視点】

- ①交通渋滞の緩和
 - 国道41号では主要渋滞箇所が12箇所存在し、慢性的に渋滞が発生しています。
 - 既に開通した6車線化区間では、交差点での渋滞が解消し、所要時間が約4割短縮しました。
 - 引き続き全線6車線化によって更なる所要時間の短縮が期待されます。

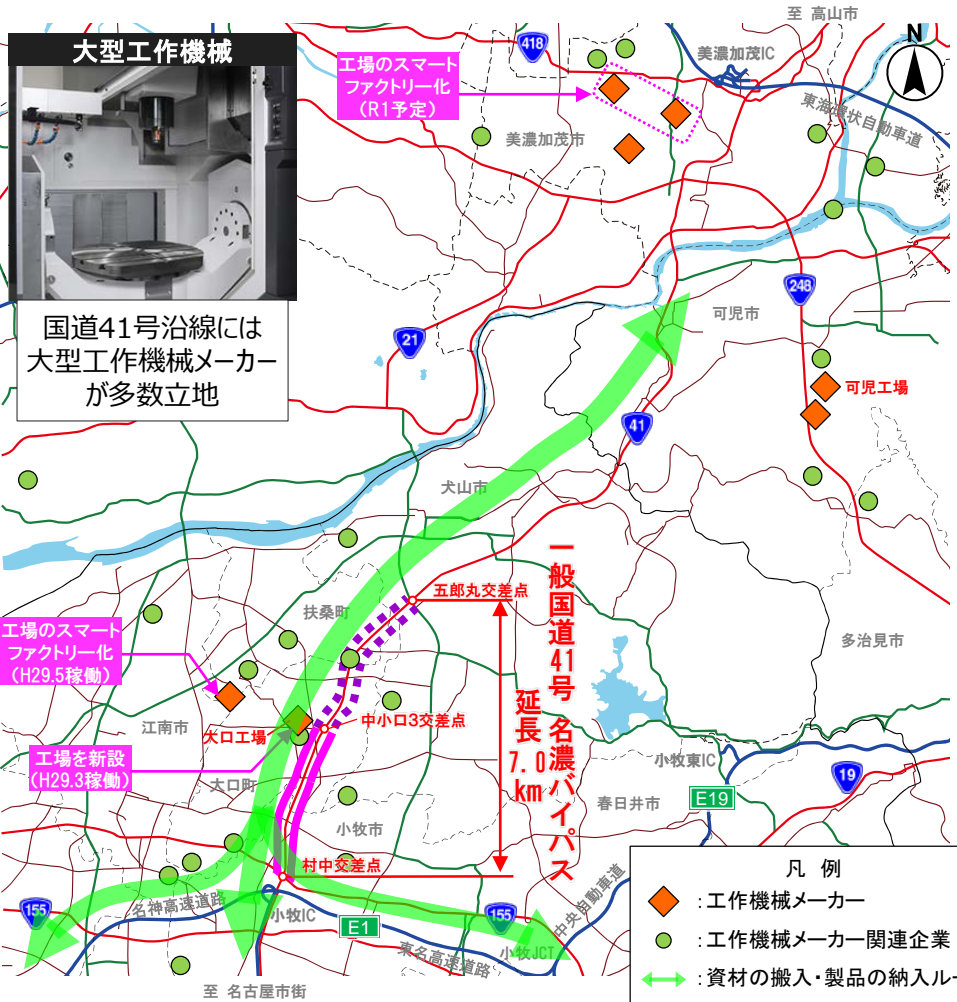


2. 評価の視点【事業の必要性に関する視点】

②ストック効果事例：沿線地域の産業支援

- 国道41号名濃バイパス沿線には、国内有数の大型工作機械メーカーが多数立地しており、近年の需要増加に対応するため、国内生産体制の増強を図っています。
- 国道41号名濃バイパスの開通により、資材の搬入・製品の納入にかかる搬送時間が短縮し、物流の効率化を支援します。

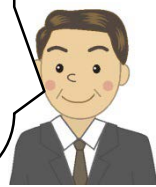
■国道41号名濃バイパス沿線の工作機械メーカー、関連企業



■沿線企業の声

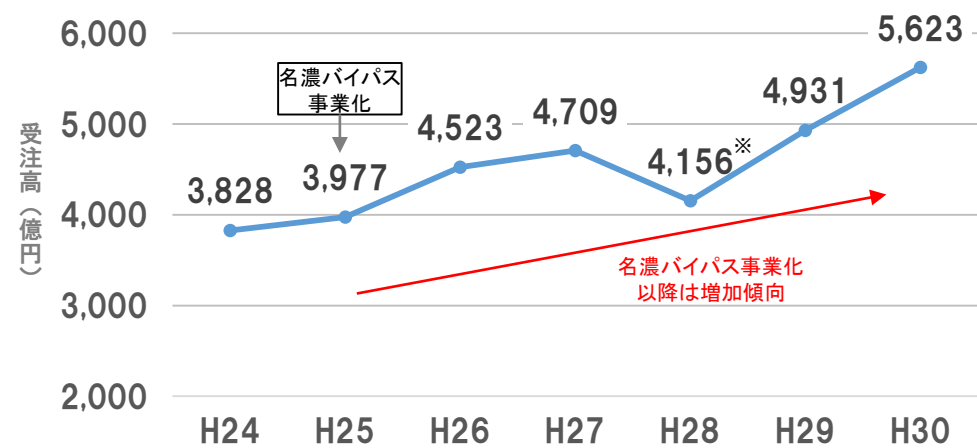
製品を名古屋港から海外へ輸出しており、村中～中小口3交差点の6車線化により、東名小牧ICまでの所要時間が約10分に半減し、物流面で効率化が図られました。

また、大口工場と可児工場間で国道41号を経由して部品運搬を行っており、名濃バイパスの今後の6車線化による更なる輸送効率化に期待しています。



※企業ヒアリングより

■金属工作機械の受注状況



※H28の減少は、円高の影響により企業の設備投資が慎重傾向になったことが一つの要因

2. 評価の視点【事業の必要性に関する視点】

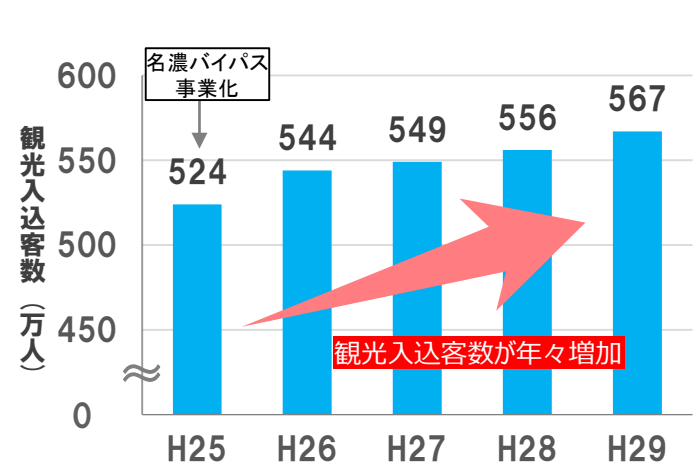
③ストック効果事例：観光支援

- 国道41号沿線には、犬山城を始めとして、多数の観光施設・文化施設が立地しており、観光入込客数が年々増加しています。
- 名濃バイパスの6車線化により、観光施設へのアクセス時間が短縮し、周遊観光の活性化が期待されます。

■観光施設・文化施設等の立地状況



■犬山市の観光入込客数



出典：愛知県観光レクリエーション統計

■沿線観光施設の声

犬山城の入込客数はH29に史上最多の約57万人となり、10年間で約3倍になりました。犬山市は名古屋方面からの観光客が多く、そのほとんどが国道41号を利用しています。名濃バイパスが開通し、渋滞がなくなれば、犬山城～明治村等の周遊観光が活発になることが期待できます。

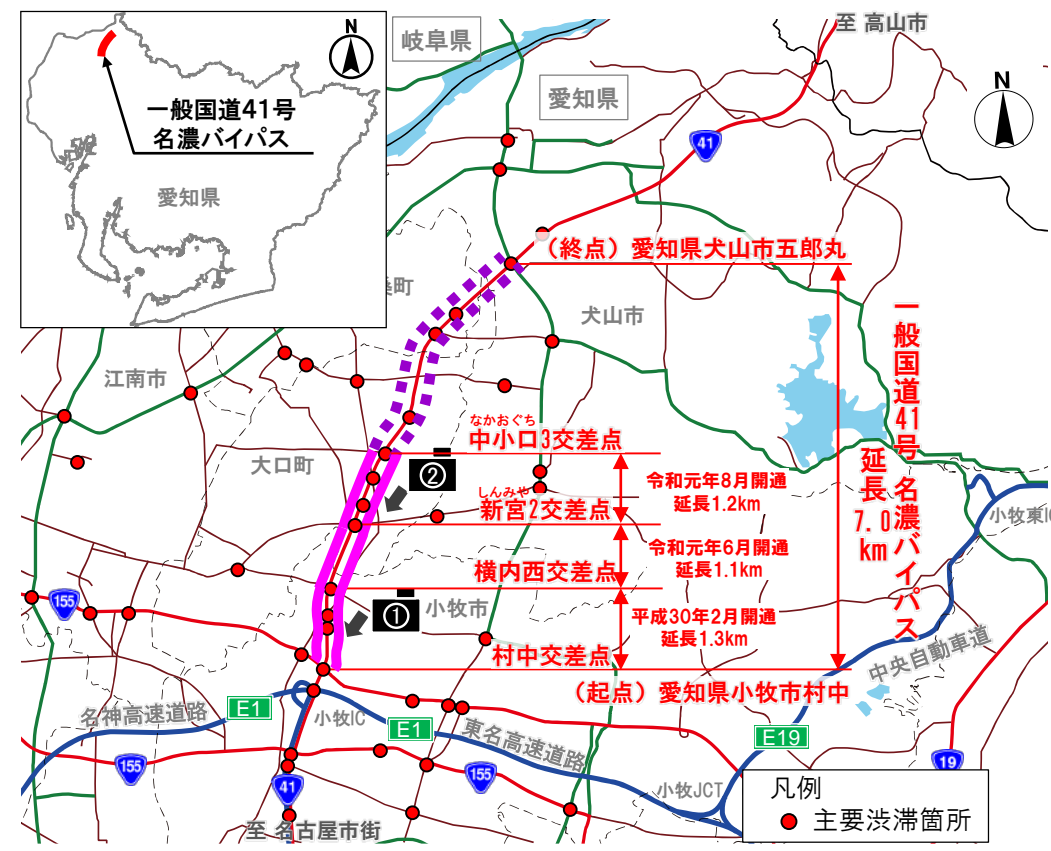


※犬山市観光協会へのヒアリング調査結果より

3. 事業の進捗及び見込みの視点

事業の進捗の見込み状況

- 村中交差点からなかおぐち中小口3交差点までの区間が6車線開通しています。
- なかおぐち中小口3交差点から五郎丸交差点までの区間について、早期の6車線開通に向けて工事を推進します。



写真① 村中交差点～横内西交差点間の交通状況



H29.2撮影



H31.2撮影

写真② 新宮2交差点～中小口3交差点間の交通状況



H29.3撮影



H31.2撮影

区間	一般国道41号 名濃バイパス
備考	【用地取得率】 100%→100% (平成28年度末→平成30年度末) 【事業進捗率】 20%→約54% (平成28年度末→平成30年度末)

4. 事業費の見直しについて：一般国道41号 名濃バイパス

■ 事業費増加の要因

・電線共同溝の追加に伴う増額・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40億円

事業費増額の要因

増額

①電線共同溝の追加に伴う増額

- 直轄国道においては、平成28年度より、緊急輸送道路上における新設電柱の占用を禁止
- 平成28年12月に「無電柱化の推進に関する法律」が施行され、道路事業実施の際、関係事業者は事業の状況を踏まえつつ、道路上の電柱・電線の新設の抑制、既存の電柱・電線の撤去を実施することが規定
- 平成30年4月の「無電柱化推進計画」の決定を受け、無電柱化を進める対象路線を関係機関と合意し、中小口3交差点～五郎丸交差点間が選定
- 上記に則り、国道41号名濃バイパスの今後の改良区間において、電線共同溝の整備を実施

40億円

4. 事業費の見直しについて:一般国道41号 名濃バイパス

①電線共同溝の追加に伴う増額 … 40億円

- 直轄国道においては、平成28年度より、緊急輸送道路上における新設電柱の占用を禁止
- 平成28年12月に「無電柱化の推進に関する法律」が施行され、道路事業実施の際、関係事業者は事業の状況を踏まえつつ、道路上の電柱・電線の新設の抑制、既存の電柱・電線の撤去を実施することが規定
- 平成30年4月に策定された「無電柱化推進計画」を踏まえ、無電柱化を進める路線を関係機関と調整、中小口3～五郎丸交差点間が選定
- 上記に則り、国道41号名濃バイパスの今後の改良区間において、電線共同溝の整備を実施

【位置図】



【平面図】



【断面図】



※国道41号は、全線が第1次緊急輸送道路に指定
 ※村中～中小口3交差点間の電線共同溝は、6車線化の改良工事が完了しているため今後別事業で整備予定



写真 南新田交差点付近



被災イメージ（写真は沖縄県宮古島）
電柱が倒壊し、緊急車両の通行に支障となる



電線共同溝イメージ(小型BOX)

5. 費用対効果分析

3便益による事業の投資効果

■費用便益分析(B/C)について

$$\diamond \text{費用便益比(B/C)} = \frac{\text{走行時間短縮便益} + \text{走行経費減少便益} + \text{交通事故減少便益}}{\text{事業費} + \text{維持管理費}}$$

【事業全体】

	便 益 (億円)				費 用 (億円)			B/C
	走行時間短縮	走行経費減少	交通事故減少	計	事業費	維持管理費	計	
前回評価時	278	20	0.10	299	74	25	99	3.0
今回評価時	338	23	0.17	361	123	30	153	2.4

【残事業】

	便 益 (億円)				費 用 (億円)			B/C
	走行時間短縮	走行経費減少	交通事故減少	計	事業費	維持管理費	計	
前回評価時	—	—	—	—	—	—	—	—
今回評価時	338	23	0.17	361	53	30	83	4.4

※1 平成30年2月に公表した平成22年度全国道路・街路交通情勢調査ベースのR12将来ODに基づきB/Cを算出。

※2 残事業のB/C算出にあたっては、未整備区間において、事業を継続した場合に追加的に必要となる事業費の合計を対象として算出した。

※3 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

※4 前回評価時のB/Cは新規事業化のH25年度の値。

【前回再評価時からの変更点】

1. 将来OD表(平成17年度全国道路・街路交通情勢調査→平成22年度全国道路・街路交通情勢調査)
2. 将来道路網条件(H27年度事業化済道路網→H30年度事業化済道路網)
3. 費用便益分析マニュアル(H20マニュアル→H30マニュアル)
4. 走行台キロの年次別伸び率(H17年度全国道路・街路交通情勢調査→H22年度全国道路・街路交通情勢調査)
5. 費用便益分析の基準年次(H24年度→R1年度)
6. 名濃バイパスの事業費(約40億円増加)

6. 代替案立案等の可能性の視点

- 一般国道41号名濃バイパスは、現道4車線を6車線に拡幅する計画であり、交通渋滞の緩和、沿線地域の産業支援、観光支援など期待される効果大きい。地域の課題に大きな変更はないことから、現計画が最適であると考えます。

7. 県・政令市への意見聴取結果

■愛知県の意見

「対応方針(原案)」に対して、異議はありません。

一般国道41号名濃バイパスは、名古屋市と岐阜県中濃地域とを結び、名神高速道路や名古屋高速道路とも一体となって、広域道路ネットワークを形成する大変重要な道路である。また、地元や沿線企業から慢性的な渋滞の緩和や物流の効率化に対する期待も大きいため、早期の6車線化完成に向け、さらに整備を加速するとともに、電線共同溝の整備を推進すること。

なお、事業実施にあたっては、一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に努められたい。

8. 対応方針(原案)

- 一般国道41号名濃バイパスの事業を継続する。